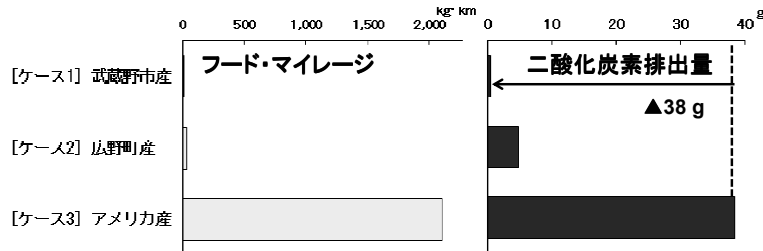


## ケーススタディ: トーフ・マイレージ(大豆)

原料大豆の産地	輸送距離	フード・マイレージ	CO2排出量
[ケース1] 武蔵野市産	22.9 km	2.6 kg*km	0.5 g
[ケース2] 広野町産	232.0 km	26.4 kg*km	4.8 g
[ケース3] アメリカ産	18,525.7 km	2,111.9 kg*km	38.3 g
(倍率: 小川町産=1)			
[ケース1] 武蔵野市産	1.0 (倍)	1.0 (倍)	1.0 (倍)
[ケース2] 広野町産	10.1 (倍)	10.1 (倍)	10.1 (倍)
[ケース3] アメリカ産	809.0 (倍)	809.0 (倍)	81.5 (倍)



地元の食材を使うことで二酸化炭素排出量を 約38g削減

cf. (1世帯1日当たり) 冷房の温度を1℃高く: ▲90g テレビを1時間短く: ▲38g 7



## フード・マイレージ - あなたの食が地球を救う -

ウェブサイト「フード・マイレージ資料室」  
(ブログ、メルマガ等)主宰 中田哲也

<http://food-mileage.jp/>

Mail: foodmileage@jcom.home.ne.jp

【自己紹介】 1960年、徳島県徳島市生まれ。  
岡山大学農学部卒業。千葉大学大学院園芸学研究科修了。博士(農学)。  
82年4月、農林水産省入省。  
2001年4月~03年7月の間、農林水産政策研究所において、篠原孝所長  
(現・衆議院議員)の指導の下、フード・マイレージに関する研究に従事。  
現在は統計部勤務。

注:本資料にある意見等は、中田の個人的なものです。

## 地産地消は地球を救う? -フード・マイレージの限界

### 1 輸送機関による環境負荷の違い

二酸化炭素排出係数 (出典:国土交通省「交通関係エネルギー要覧」、平13・14年版)

営業用普通トラック	180 g-CO2 / t・km
鉄道	22
外航船舶 (バルカー)	10
(コンテナ)	21



➡ モーダルシフトの重要性

### 2 フード・マイレージは輸送に限定された指標

生産や加工、消費、廃棄面での環境負荷は考慮せず。

: 例えば、粗放的に生産された食品を船で輸入すれば、国内で集約的に生産するより、トータルの環境負荷は小さくなる可能性。

➡ LCA、カーボンフットプリント



## フード・マイレージのメリット

日々の食生活が地球環境とつながっていることに気付くヒントに

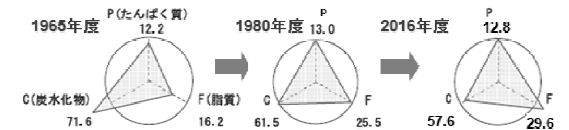
➡ 旬産旬消、なるべく食べ残しをしない、有機農業への関心 8

## 「フード・マイレージ」を考える背景

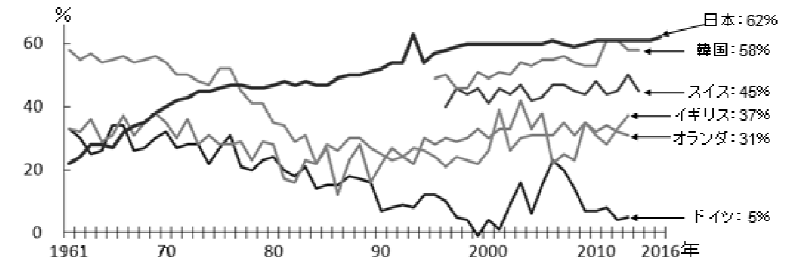
### 私たちの食生活の大きな変化と、その悪影響(1)

- ①食の外部化・簡便化 ②米消費の半減と畜産物・油脂の大幅増 -

### 1 栄養バランスの崩れ (PFC熱量比率)



### 2 食料の海外依存率の上昇(自給率の低下)

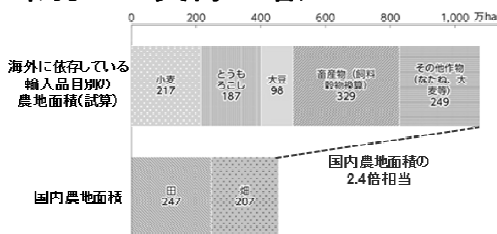


### 3 食品ロスの増大: 621万トン(2014)、うち家庭系282万トン

# 食生活の大きな変化が及ぼしている悪影響(2) 地球的な資源・環境への負荷の増大

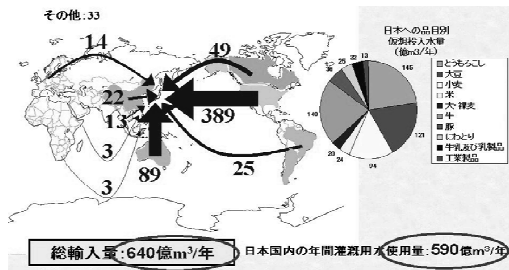
## 1 海外の農地への依存

主な輸入農山物の生産に  
使われている海外の農地面積  
: 国内の2.4倍



## 2 仮想投入水 (ヴァーチャル・ウォーター)

仮想投入水の総輸入量  
: 640億m<sup>3</sup>  
国内の灌漑用水使用量  
: 590億m<sup>3</sup>



## 3 食料の大量・長距離輸送に伴うCO2の排出 →フード・マイルージ

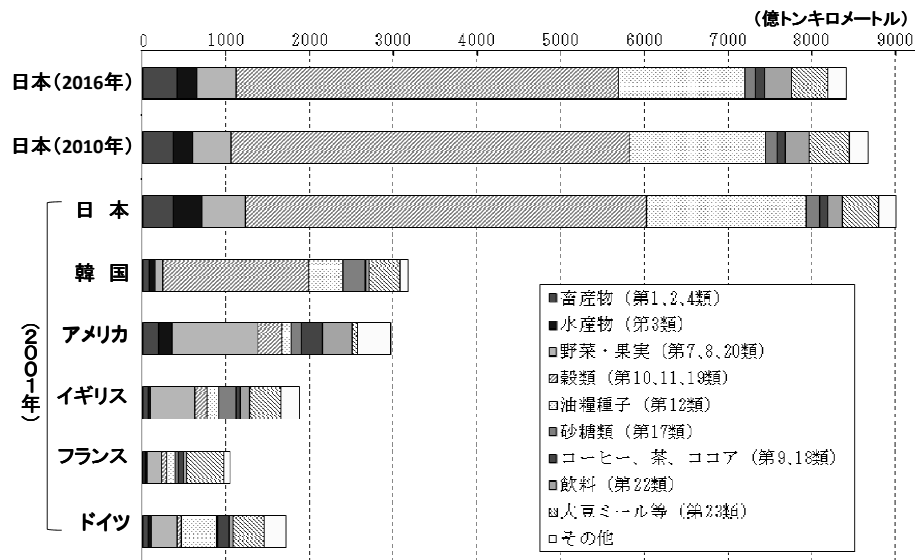
### 「フード・マイルージ」とは

- イギリスの“Food Miles”運動  
: 「なるべく近くで取れたものを食べることにより、食料輸送に伴う環境負荷を低減。」
- 考え方、計算方法は単純  
: 食料の輸送量 × 輸送距離 単位:t・km(トン・キロメートル)
- 特色  
食料の供給構造を物量とその輸送距離により把握
  - ・ 食の安定供給、安全性の確保(トレーサビリティ)
  - ・ 「食」と「農」の間の距離の計測
  - ・ 食料の輸入が地球環境に与える負荷の把握

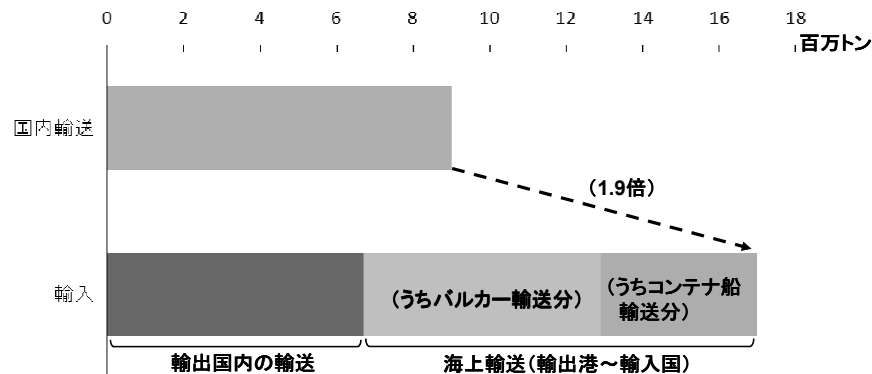
cf. 食料の海外依存率(自給率): 距離の概念を含まず。

➡ まず輸入食料のフード・マイルージを試算、国際比較

## 各国のフード・マイルージの比較(総量、品目別)



### 食料輸送に伴う二酸化炭素排出量(推計)



輸入食料の大量・長距離輸送により排出されるCO2: 16.9 百万t  
 ⇒ 一世帯当たり年間 約380kg  
 (家庭での取組による年間削減量)  
 冷房を1°C高く暖房を1°C低く設定 : 約33kg  
 1日1時間テレビ利用を減らす : 約14kg